



# 枚方市・寝屋川市 防火協会 創立60周年記念祝賀会



# 会報 防災だより

2012  
VOL.9  
9月30日発行

## CONTENTS

1. ご挨拶 ..... 会長 大黒裕明 2P
2. 消防本部庁舎新築記念品を寄贈 ..... 2P
3. 予防課職員紹介 ..... 2P
4. ご挨拶 ..... 消防長 小向洋一 3P
5. 新たに三つの高校生消防クラブ結成 ..... 3P
6. 平成24年度定時総会 ..... 4P
7. 第4回防災意見発表会 ..... 4P
8. 平成24年度事業計画 ..... 5P
9. 協会役員 ..... 5P
10. 平成24年度加入新規事業所紹介 ..... 5P
11. 枚方・寝屋川防火協会創立60周年記念式典に参加して ..... 梶沢幸苗 6P
12. 東日本大震災津波浸水高表示板を寄贈 ..... 6P
13. 第35回少年消防クラブリーダー研修会 ..... 7P
14. 趣味をもとう ..... 中澤均 7P
15. 八戸地域防災協会視察研修 ..... 8P
16. 会員事業所紹介コーナー ..... (株)味の加久の屋 8P

題字揮毫 大黒会長



## ご挨拶

八戸地域防災協会  
会長 大黒 裕 明

日頃は当協会の活動にご理解とご協力を頂きありがとうございます。防災だより第9号をお届けします。

昨年引き続き今年も地震や豪雨災害がしばしば起こっています。日本だけでなく海外でもそれは同じで、大きな被害に見舞われたところもあるのですが日本ではあまりニュースにはならなかったようです。被災された国の方々はご同情申し上げますが、これには機会にそれぞれの国の防災意識が高まることを期待します。例えば、我が国でこそ建築物は強度補強が義務化されていますが、外国には日干しレンガを積み重ねただけの家がまだたくさんあるし、もう先進国と言っても良い国でありながら建築現場に竹竿を使っている、意識や規制の甘い国々もあるのですから被災も仕方のないことかも知れません。

過去何百年かはそれでも良かったのでしよう。地球の地盤も気候も比較的穏やかで、もちろん時々気まぐれがあったものの大きな被害には繋がらなかったのです。でも、この十年前後を振り返ってみると地盤も気候もヒステリックになっっているような気がしてなりません。なぜそうなったのでしょうか。大陸が動いてストレスがたまってきたのか、地球温暖化で大気や海水の動きが変わってきたのか、原因の探求は研究者に任せるとは思いますが不安はいよいよ募ります。さらに近年では建築物も都市も、規模や危険度が過去と比較にならないくらい大きくなり、もはや、百年前いや五十年前の常識では守りきれないことを自覚しなければなりません。まずは自分で自分を守る事が大切で、エゴイズムではなくそれぞれがまず自分の身を守る姿勢が、ひいては人を守り地域を守ることを再認識しなければなりません。近年の被災を復旧するためにどれだけの苦勞をしたか、その記憶を風化させてはならないのです。

当会では皆様の御同意を頂いて、昨年、市の災害復旧協議会に「3・11津波到達点」の表示を提案いたしました。提案は取り上げられましたが様々な事情で実施が遅れ、ようやく合計十か所の地点に表示できることになりました。

この表示が市民の皆さんの注意を喚起し、安全で安心な街づくりに役立つようお祈り申し上げます。さて、東日本大震災から約一年半経過しましたが、まだ三陸沿岸の被災地を実際に見聞していません。方もたくさんおられるのではないのでしょうか。当会では秋に被災地視察を計画しています。自分の目で見て確かめ、記憶の中に刻み込むために、多くの方の参加を期待します。また消防本部が新しくなりましたが、是非多くの方に見学いただきたくないと本部のスタッフがお待ちしているそうです。事業所の防災意識啓蒙活動として活用されるとう意義だと存じます。ご希望の方は事務局までご連絡ください。今後とも、当協会の活動にご理解、ご指導とご協力をお願い申し上げます。

## 消防本部庁舎 新築記念品を 寄贈

平成24年3月、当協会事務局のある八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部の庁舎が新築されました。

これに伴い、当協会から新築記念品として視聴覚用備品を、次のとおり寄贈いたしました。

- プラズマテレビ（55型）
- ブルーレイレコーダー
- テレビスタンド等一式

6月13日、大黒会長が消防長室を訪れ、小向消防長に目録を手渡しました。



小向消防長からは、「貴重な備品を大変ありがとうございます。今後、様々な研修等に使用し役立たいと思います。」との感謝の言葉をいただきました。

当協会としても、機会を捉えて活用して行きたいと思っております。

## ○予防課職員紹介○

今年度、当協会の事務局のある消防本部予防課の職員は、次のとおりです。

- 田端 民夫（課長）
- 橋本 広功（課長補佐）
- 齋藤 明（副参事兼設備指導班長）
- 川守田和彦（副参事兼保安調査班長）
- 工藤 智也（保安調査班主査）
- 大嶋 洋一（設備指導班主査）
- 賣井坂常幸（保安調査班）
- 宮本 神利（設備指導班）
- 岸 祐也（設備指導班）
- 齊藤 智美（協会職員）

※○は、事務局担当



## ご挨拶

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部  
消防長 小 向 洋 一

会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

私こと、今年4月1日付けで消防長を拝命いたしました。課せられた任務は瞬時の停滞も許されないものと、決意を新たにし、職務を遂行しているところでございます。

昨年は未曾有の災害であった東日本大震災により、東北地方を中心に多くの尊い命と財産を奪い去られました。一年を経過した現在もなお、被災各地では復旧・復興の取組みが行われております。

震災時には、当協会の皆様の事業所等においても諸活動に追われ従事されたことと拝察いたし、心から敬意を表する次第であります。

さて、私の就任から六ヶ月が経過いたしました。国内では、茨城県等を中心とした竜巻災害、ホテル・旅館における火災やトンネル爆発事故が発生するなど、依然として全国各地で住民の身近な生活が脅かされております。

国外においても、近年ニュー

ジーランド南東地震やトルコ東部地震、さらにタイ王国における長期間にわたる洪水など、大規模な災害が後を絶たない状況にあります。

このような状況の中、安心・安全に対する住民の関心は一段と高まりを見せております。

そして、多発する大規模災害等に対応する為には、消防力の強化のみを進めるのではなく、同時に地域の防災力を総合的に強化することが肝要であります。

貴協会は平成20年4月に当消防外郭の三団体が統合し設立され、創立当初から今日に至るまで、組織を挙げて様々な防災運動を繰り広げ、地域の安心・安全に多大な功績を残して参りました。

これまでも我が消防本部においては、貴協会の皆様のご支援・ご協力を賜りながら数々の事業を展開して参りましたが、最近の大規模な災害に対応するためには、貴協会との連携をこれまで以上に深め、地域ぐるみの強固な防災体制を目指すことが大事だと常々考え

ております。

会員の皆様には、今後ともより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

私事で恐縮ですが、昭和56年7月から昭和59年7月までの3年間、予防課員として当時の八戸地域広域防火管理者協会並びに八戸消防設備協会の皆様にお世話になりました。またその後、昭和59年7月からの約2年間は当時の警防課において旧八戸市自衛消防連絡協議会の皆様とも接する機会に恵まれました。あれから約30年が経過しましたが、かつて三団体で活躍の皆様が、統合後の貴防災協会において現在も現役として活動されている姿をお見かけいたしました。そして、その懐かしい方々に再び接する機会に恵まれ、大変嬉しくそして光栄に感じているところでございます。

いろいろな人との出会い、またたくさんの方々の温かいご支援・ご指導により、今日まで職務を全うさせていただいております。ここに改めて、深くお礼申し上げます。結びに、貴協会の益々のご発展を祈念いたしまして、就任の挨拶に代えさせていただきます。

## 新たに三つの 高校生消防クラブ 結成

平成24年4月以降、新たに、八戸工業大学第一高等学校、千葉学園高等学校、八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校の3校が消防クラブを結成したことで、管内の高校生消防クラブは、計5校となりました。

近年、少子高齢化の進展などの社会情勢を背景としてクラブ員が減少傾向にある一方、災害に強い地域社会をつくるために少年等の消防クラブ活動を通して子供の頃から防災教育を行うことは非常に有効であり、将来の地域防災を担う人材を育成するという観点からも、極めて重要であると言えます。

各校の結成式には、当協会の大黒会長が出席し、記念品としてシ



八戸工業大学第一高等学校

千葉学園高等学校



ンボルマーク入りのアポロキャップを寄贈しました。また、少年消防クラブ育成協議会の武山会長から「東日本大震災を経験したこともあり、クラブ員の皆さんには災害時に力になって欲しい。」と激励の言葉もありました。

生徒の代表からは、「防災意識の高揚と知識向上を図るため、一生懸命活動することを誓います。」との力強い宣誓がありました。今後の活動が期待されます。



八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校



去る5月23日(水)、八戸プラザホテル2階プラザホールに於いて会員14名出席のもと、平成24年度の定時総会が開催されました。総会に先立ち、「八戸地域防災協会の歌」を、音楽講師の坂本利枝子様からご披露頂きました。総会は、大黒会長が議長を務め、平成23年度の事業結果報告及び収支決算など全ての議案が原案通り承認・可決されました。

続いて役員の変更が行われ、現行の役員全員が再任されました。その後、今年度の事業計画及び収支予算、また会則改正の議案が承認・可決されました。会則改正については、次の二件でした。

①年会費を三年間納付しない場

合には、自動的に退会となる

②「八戸北部会」の名称を「おいらせ部会」とする

また総会後には、会場をプリリアントに移し、多くの来賓を招待して懇談会が行われました。



## 第4回 防災意見発表会



定時総会に先立って、「第4回防災意見発表会」が八戸プラザホテル2階さくらの間において開催されました。

会員76名が会場入りした中、協会員1名のほか、婦人消防クラブ、消防団員及び消防職員から各1名、計4名の方が防災に関する発表を行いました。

防災士養成講座、東日本大震災時における消防団活動、防災に強い組織作り、AED使用を簡単にするためのスマートフォン活用案など、発表者の経験をもとにした提言がなされ、出席した多くの会員から大変参考になったとの声が上がりました。

終了後、小向消防長からは、「本日はいただいた貴重な体験に基づく提言を基に、会員の皆様が今後の防災活動に活かし、職場や地域に防災意識を広げてくださることを期待しております。」と講評をいただきました。

### 「防災士養成講座を受講して」

八戸製錬(株)八戸製錬所  
見附 幸夫さん



見附さんは、昨年度東京都において開催された講座を受講され、現在防災士として活躍されておりますが、受講に至った大きな理由は、昨年発生した東日本大震災時の社内対応の反省だったそうです。震災時における自らの行動を反省し、防災に関することを様々な勉強し、いつ起こるかわからない災害を最小限に食い止めるた

め、「減災対策」と「地域の防災力」を構築できるよう日夜努力しているとの発表でした。

### 「消防団を守るもの」

八戸市消防団市川分団4班  
木村 秀樹さん



東日本大震災において、津波により自宅を流されながらも管轄地区の住民を救助した木村さんは、他県で殉職された消防団員の姿を自分に重ねて考えたそうです。

このような時に自分たち団員の命を守るためには、地域住民が避難指示を待たなくても行動を起こすコミュニケーション作りが重要と考えたそうです。

このため、地域住民が自主的に避難できるようにすることを自分の職責と位置付けてこれから頑張っていくという力強い提言でした。

「防災に強い組織づくり  
を目指して」

豊崎婦人消防クラブ  
奥田マサ子さん



豊崎地区では、昭和43年の十勝沖地震の際大規模な土砂崩れが発生しました。現在、地域において婦人消防クラブが活発に活動している背景には、その時のことが大きいと言えます。

また、奥田さんは、住宅用火災警報器の設置普及の一環として行っている「家庭あんしん音頭」の実演・指導されております。今後も婦人消防クラブの中核となつて、防災に強い組織作りを推進していきたいという意見でした。

「救命の輪」

八戸消防署河原木分遣所  
鳥谷部隆之さん



消防職員の鳥谷部さんは、救命処置を行う上で効果の高いAEDについて、現在普及の著しいスマートフォンアプリを作成することで一般住民の使用を簡単にし、「救命の輪」を広げていくとの提言でした。



平成24年度  
事業計画

- 1 災害時要援護者支援事業
  - (1) 住宅用火災警報器寄贈設置
  - (2) 電気・水道、燃焼器具設備等の点検修理
- 2 防火防災思想普及事業
  - (1) 火災予防運動用ポスター作製及び配布
  - (2) 各種防火チラシ作成及び配布
- 3 研修
  - (1) 消防設備等の研修
  - (2) 各種施設等の見学
  - (3) 講演会の開催
  - (4) 消火訓練の実施及び各種訓練への参加
  - (5) 救命講習の実施
  - (6) 防災士の養成
- 4 機関紙の発行
- 5 消防関係資格取得講習会等の後援及び情報提供
  - (1) 防火管理者新規講習会の後援及び実施の周知
  - (2) 甲種防火管理再講習の後援
  - (3) 消防設備士試験、事前講習会等の情報提供
- 6 幼年・少年・婦人消防クラブの育成援助
- 7 加入促進事業の推進
- 8 防災フェスタ2012の開催

協会役員

会長	大黒裕明
副会長	福澤光雄
副会長	工藤美登
副会長	田名部喜栄
副会長	椋沢幸苗
副会長	小野十三宏
副会長	豊山周二
副会長	北向幸吉
副会長	山岸武男
副会長	高橋優
理事	神山明久
理事	加藤芳代
理事	長谷地洋一
理事	李澤隆聖
理事	田頭正嗣
理事	柳谷利通
理事	高橋秀美
理事	島浦千晴
理事	中野喜代芽
理事	多田和徳
理事	太田欣一朗
理事	木村健一
理事	菅原基治
理事	高橋清隆
理事	山子則男
理事	小川洋一郎
理事	田村滋敏
理事	中里政廣
理事	佐々木敏治
理事	金正夫

新規事業所紹介

平成24年度加入

- 2部会
  - ・ オフィシャルナイン
  - ・ (株)金入
  - ・ サークルK八戸湊橋店
  - ・ (有)重兵衛
  - ・ (有)十日市食堂さめ八
  - ・ ナインビル
  - ・ 和風レストランまるまつ八戸西店
- 3部会
  - ・ 洲崎耳鼻咽喉科医院
  - ・ 聖マリアハートクリニック
  - ・ 伴内科心臓血管クリニック
  - ・ 合資会社彩り工房
  - ・ (有)ベース サービス付住宅しもなが
- 5部会
  - ・ ホンダカーズ八戸中央石堂店
- 6部会
  - ・ (株)TK八戸営業所
- 三戸部会
  - ・ グループホームひまわり
- おいらせ部会
  - ・ 一川目町内会

- 監事 齊藤 浩
- 監事 佐藤 準
- 監事 木村 治
- 参与 野澤 俊雄
- 参与 鳥谷部 富子

# 枚方・寝屋川防火協会 創立60周年記念式典に 参加して

副会長 花 沢 幸 苗



平成24年3月25日、消防本部より小向洋一 次長（当時）、大黒裕明 会長はじめ役員等13名が枚方市防火協会・寝屋川市防火協会創立60周年記念式典に参加した。当会の前身である八戸地域広域防火管理者協会が、昭和60年3月



に枚方市寝屋川市防火協会連絡協議会と友好姉妹関係を結び、27年の長きにわたり交流してきた経緯の中で招待を受けたものである。式典は、京都駅隣接のホテルグランドヴィア京都で行われた。一行は、式典当日の朝八戸を立ち新幹線で京都まで行きそのまま式典に参加するという強行軍ではあったが、記念すべき式典に参加できるということの緊張と興奮で、誰も疲れを感じさせない様子が見えなかった。また、式典の始まるまでの時間を借りて、創立60周年のお祝いに、八戸市是川の風張遺跡から出土した国宝「合掌土偶」のレプリカを特別にあつらえ、記念品として贈呈した。



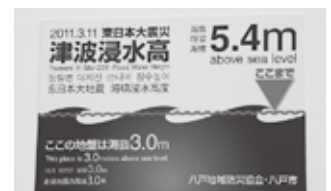
午後4時30分より開始された式典は、枚方市防火協会会長による主催者挨拶に始まり、来賓祝辞、感謝状贈呈と続いた。主催者挨拶の中では、協会の60周年を祝うと同時に、東日本大震災及び八戸の被災者に対しての温かい励ましの言葉を頂いた。これに対し来賓挨拶として大黒会長は、60周年のお祝いと同時に東日本大震災のおり、当協議会様より手厚いお見舞いを頂いたことへのお礼と感謝の気持ちを述べ、協議会のますますの発展を祈念し、今後の両協会の友好親善をさらに深めていきたいとの思いを述べた。

式典後の祝賀会は、京都らしい舞妓さんや芸子さんのアトラクションに大いに盛り上がり、かわいい舞妓さんのお酌には女性の私でも楽しく笑顔がこぼれたが、男性の参加者の皆さんのお顔はそれ以上に嬉しさを隠しきれない様子であった。次の日の午前中は、参加した役員相互の懇親を深める意味で「清水寺」を散策し、13時16分の新幹線で帰路に着いた。今回の旅行を通し防火協会の役割の大きさを再確認したと同時に、消防本部との確固たる協力体制がより良い防災の力になることを確信した。最後になったが、式典の参加に当たり、準備等大変な役割を担って頂いた消防本部の方々により感謝の気持ちを表したい。



前列左端から一番目が花沢副会長

枚方市・寝屋川市防火協会  
連絡協議会から震災復興として  
「東日本大震災  
津波浸水高 表示板」  
を寄贈



当協会では、東日本大震災による津波浸水高を記した表示板を設置し、八戸市に寄贈しました。この表示板は、姉妹協会である大阪府の枚方市・寝屋川市防火協会連絡協議会から寄せられた見舞金を活用して製作したものです。

7月31日、館鼻汚水中継ポンプ場の壁面に取り付けられたのを皮切りに、蕪島の階段、白浜海水浴場、種差漁港など八戸市内10ヶ所に設置されました。

材質はアルミ複合板で、大きいものは幅1.2m、高さ80cmあり、津波到達点や海抜が日本語、英語、中国語、韓国語で書かれています。訪れる人に津波の恐ろしさを伝

え、注意を喚起することができ、災害に強い街づくりに大きな役割を果たすものと期待されます。





今年も7月23日(月)から3日間の日程で、広域圏内の少年消防クラブ員を対象とした研修会が実施されました。

当協会が後援するこの体験合宿研修は、毎年少年消防クラブの活動を盛んにするためのリーダーを育てる目的で、種差にある県立種差少年自然の家で行われているものであります。



今回は、72名のクラブ員が参加し、火災予防に関する勉強会やレスキュー体験訓練、またキャンドルファイヤーなどを行い、楽しい中にもリーダーとしての素養を深めました。

当協会からは、記念品として少年消防クラブのシンボルマーク入りのアポロキャップを、田名部副会長が贈呈しました。受け取ったクラブ員は、最初は恥ずかしそうでしたがすぐに慣れ、全員で研修期間中これをかぶっておりまして、とてもよい記念になったことと思います。



リーダー研修会活動

# 趣味をもと

## 昆虫採集

学校法人小沢学園 認定こども園  
かもめ幼稚園  
教諭 中澤 均

「趣味は何ですか？」と聞かれて一番最初に答えるのが「虫採り」です。他にも趣味はありますが、その中でも一番楽しいのは、やっぱり「虫採り」「昆虫採集」です。

小学校4年生の時だと思えますが、夏休みの宿題に自分で集めた虫を展翅してから、お菓子の箱に入れビニールをかぶせて提出したら賞を頂きました。生まれて初めて頂いた賞だったので、とても嬉しかったのを覚えています。

それから十数年が経ち、また虫採りを始めていました。それは、今はもう故人となりましたが、虫好きの大先輩に声をかけられ、事あるごとに一緒に虫採りに出かけるようになったことが原因です。それからいつの間にか、30年が経ってしまいました。

4月の始めから11月の雪の降る頃までの休みの日は、殆ど虫採りに出かけるようになりました。お陰で今では、虫の出る時期がわかるようになり、4

月の半ばはヒメギフチョウが出ている頃だから〇〇に行ってみようとか、7月の半ばを過ぎればルリボシカミキリが出ている頃だから〇〇に行ってみようかなどと、どこに行けばどの虫が採れるかわかるようになりました。春はエゾハルゼミの大合唱を聞きながら、夏は新緑からの木もれ日の中採集地までの道のりを楽しんでおります。現地に着くと網の準備もそこに、ワクワクしながら獲物の来るのを待ったり、探したりしながら採集に励みます。今でも、今年初めて採る虫にはドキドキします。また、家でも沢山の虫を飼育していて、オオクワガタを採集してきて卵から幼虫・蛹・成虫と2年がかりで育てるのも結構おもしろいものです。

トンボやセミの羽化はまた格別で、幼虫から出てきたばかりの時のあの透明に輝く薄黄緑色の体や羽は何とも言えないですね。

また、世界の虫に目をやると青く光り輝くモルフォチョウは自然が創りあげた芸術作品みたいだし、花そっくりのカマキリや人の顔を持つカメムシやバイオリンの形そっくりの虫など様々です。そんな虫の不思議を子供たちに教えてあげると園長先生からの要望もあり、幼稚園で生きている虫を観察したり触ったり。また、標本を見せ図鑑などに載っている写真や絵の本の大きさや色・形を知って貰うようにしております。

今の子供たちは、虫との関わりが極端に少なく、そこにいるだけで怖がってしまう子供も多いようです。怖がる子供はたいがい親が嫌いと言

う事が往々にしてあるようです。親が嫌いだと子供も嫌いのようです。子供にとって虫は、小さなおもちやったり可愛がる存在だったりします。虫を可愛がることで優しさや小さな命の大切さを知ることができると思っています。一匹の虫の生活(名前・エサ・棲む所・生体・特徴等)を知ることでも色々な発見をすることが出来、ますます興味が湧いてくるのではないのでしょうか。

現在、幼稚園の他にも姉妹園の保育園にも行って虫のお話しをしております。初め怖がっていた子供たちも徐々に慣れて、今では「今日は何の虫を持ってきたの？」と、楽しそうに聞いてくるようになりました。また、虫を怖がる子供でも、私が触って見せたり他の子供が喜んで触っている様子を見て、自分も触ってみたいという気持ちになっていくようになります。

夏休み前に、幼稚園では、全園児にカブトムシの幼虫や蛹を持たせました。幼虫から蛹そしてカブトムシになる様子を観察することで命の不思議を学んで欲しいと思っております。青森県は自然がまだまだふんだんに残っているように思います。虫にとって棲みやすい環境は人間にとっても同じだと思います。毎年同じ場所と同じ虫を採れる事は幸せだなと感じます。このままの自然を子供たちにそのまま残してあげられたらいいですね。

趣味の昆虫採集を通して青森県の自然の変化やおもしろさを、子供たちに伝えて行きたいと思えます。そのためにも、これからもあっちこちと飛び回って「虫採り」を続けたいと思います。

## 八戸地域防災協会 視察研修

当協会では、8月22日(水)に、今年度最初の視察研修会を実施しました。

今回の研修には32名の会員が参加し、米空軍三沢基地内にある「施設中隊消防本部」と、「県立三沢航空科学館」を見学しました。当日は、大変汗ばむ暑さでしたが、好天に恵まれ研修日和となりました。

目的地の米空軍三沢基地には、予定より約15分遅れて到着しましたが、施設中隊消防本部の川嶋副隊長さんが笑顔で迎えてくれました。

ゲートから入ると、見慣れない街並みが広がり、川嶋さんの親切丁寧な案内ガイドが始まりました。ショッピングセンター、映画館、消防署、学校等は明らかに日本の造りとは違い、異国情緒に溢れ大変興味深いものでした。

消防本部に到着してからの内容は、皆驚くものばかりでした。一つ目は食事の形態ですが、危険で拘束の多い仕事なので、職場で家族と一緒に食事ができるとのことでした。

二つ目は、消防署勤務と言えども戦場に派遣されることがあるということでした。基地内だけの消防隊員とい



う先入観があったので驚きでした。

庁舎内、車庫、消防車両等の説明を受けた後、記念撮影を行いました。短い時間ででしたが、とても参考になりました。

その後は、第二の研修場所である県立三沢航空科学館に向うのですが、移動中車内のテレビにスイッチを入れた途端、歓声が上がりました。その日はちょうど全国高校野球大会の準決勝で、我が地元の代表校である光星学院高校がちょうどリードしていたからです。到着までとその後の昼食の時間中、バス内で協会員一丸となって応援しました。結果として光星学院が勝利することになるので、午後1時に研修が始まる時には皆後ろ髪を引かれる思いでバスを後にしました。

館内では、日米の橋渡しとなったミス・ビードル号による太平洋無着陸横断飛行を始めとし、航空機の歴史、操縦士体験、世界から見た飛行状勢等、時間内では体験しきれないほど盛りだくさんな研修コーナーがあり、協会員はそれぞれ研修を深めておりました。

今回の研修で、私たちの近くにある「小さなアメリカ」を意識できたのではないかと思います。

次回の開催には、更に多くの方々に参加していただくことを願って、今回の報告を終えます。



## 会員事業所紹介コーナー

⑦



### 株式会社 味の加久の屋

住所：〒031-0841  
八戸市大字鮫町字福沢久保3  
TEL：(0178) 34-2444

営業時間 8:00~17:00  
定休日 水曜日・日曜日・祝日  
HP <http://www.ichigoni.com>  
(いちご煮ドットコム)

味の加久の屋は、昭和56年に八戸缶詰企業グループの一つとして設立されました。

TVコマーシャル「八戸の味 味の加久の屋」でお馴染みウニとアワビのお吸い物「いちご煮」缶詰は、三年の長い年月、研究開発を続け、昭和55年10月25日に世に誕生した商品です。

昭和52年、当時社長(現会長)の「この美味しい誇れる郷土の味、『いちご煮』をいつでも、どこでも、手軽に、皆様に食べてもらうためにいちご煮の缶詰を作る」という思いから研究・開発が始まりました。

「いちご煮」は、鮫町にあった『料亭旅館石田家』が大正時代に料亭料理として供したのが始まりです。この名前は、お椀に盛り付けた時、乳白色の汁に沈む黄金色のウニの姿が、まるで「朝露の中に霞む野いちご」のように見えることから、石田家の主人が名付けた大変風流な名前です。「いちご煮缶詰」の完成により、日本中、世界中、どこでも食べることができるようになりました。皆様からご愛顧いただき、お蔭様で発売から30年を超えるロングセラーとなっております。

八戸の味と言えば、「いちご煮」の他に「せんべい汁」も人気があり有名です。

弊社では「せんべい汁」の缶詰を開発・販売し、平成7年には青森県土産品新商品開発コンクールにて特選を受賞しました。現在では、B-1グランプリ出場の八戸せんべい汁研究所と共同開発したコク塩味の「八戸せんべい汁」も仲間に加わり、大好評をいただいております。

弊社で設立当初から販売しているロングセラー商品には、「いちご煮」の他に鯖水煮缶詰「八戸沖秋さば」があります。この「八戸沖秋さば」は、八戸缶詰が昭和56年に農林水産祭において、缶詰業界初の内閣総理大臣賞を受賞した「鯖水煮缶詰」がベースとなっております。

秋に八戸沖で捕れる真鯖の中から、新鮮で、型が大きく、脂分含有量が多いものだけを厳選し、一つ一つ丁寧に手詰めた、数量限定の特別な缶詰です。規格に合う良い原料が捕れないときは製造しないため、店の棚から消えてしまい、「幻の鯖缶」と呼ばれたこともある商品です。

味の加久の屋は、これからも地元八戸の誇れる味を全国へ発進してまいります。どうぞ、今後ともご愛顧くださいますようお願い申し上げます。